

# 平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月5日 (月)

会場 日立第一高等学校体育館

【男子の部】 第4日目 Cコート 第1試合

チームA <b>洛南</b> 京都	<b>98</b>	{ 17 2Q 18 26 3Q 12 23 4Q 21 OT	<b>58</b>	チームB <b>日本大学山形</b> 山形
-------------------------	-----------	---	-----------	-----------------------------

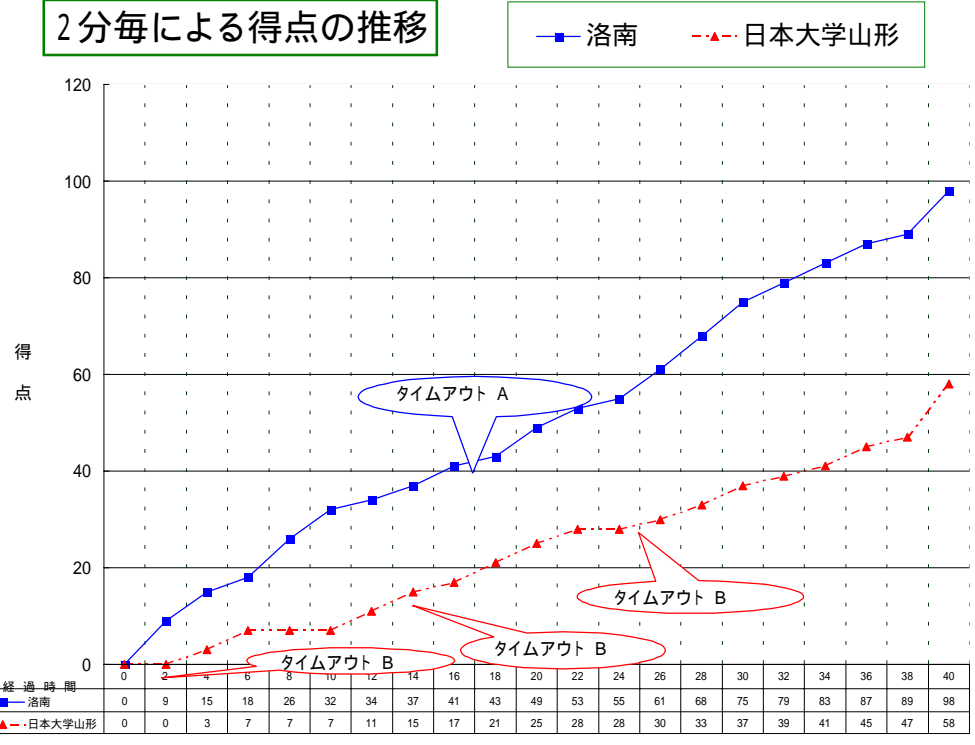
洛南

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	原田 有人	0	0	1	0	4	0	0	2	0	2	4	0	2	0	18
5	名本 公平	22	0	1	9	14	4	5	1	0	2	3	0	1	1	25
6	竹内 公輔	20	0	0	10	12	0	1	0	4	10	4	3	4	2	30
7	竹内 謙次	17	0	2	6	8	5	5	2	2	6	2	0	1	3	29
8	日椋 直人	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	12
9	横尾 達泰	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	7
10	西垣 仁貴	4	0	1	2	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	12
11	深尾 晃生	15	1	1	6	7	0	0	0	1	1	0	0	2	0	28
12	木村 励	5	0	2	2	4	1	2	0	2	0	3	0	4	1	15
13	木村 勇太	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	4	0	2	0	5
14	木村 壮志	11	0	0	5	7	1	2	0	1	3	1	0	1	1	14
15	岡田 健佑	4	0	0	2	3	0	0	0	1	1	0	1	0	0	5
コーチ	吉田 裕司								0							
		98	1	8	42	62	11	15	9	11	26	26	5	19	9	200
		確率	12.5%		67.7%		73.3%			計	37					

日本大学山形

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	菊地 祥平	18	0	5	6	21	6	6	4	1	3	5	0	3	0	40
5	小川 智彬	17	3	7	4	15	0	0	2	3	2	3	0	1	0	40
6	三沢 龍児	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	2	0	0	0	17
7	伊藤 拓郎	0	0	2	0	4	0	0	2	0	1	0	2	4	0	27
8	斎藤 健悟	3	0	1	1	3	1	2	3	0	0	2	2	1	0	14
9	佐藤 淳	1	0	0	0	3	1	2	1	0	0	2	0	0	0	14
10	畑 雄太郎	5	1	3	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	15
11	阿部 修平															DNP
12	村田 兼義															DNP
13	斎藤 渉	10	0	2	4	6	2	2	2	0	0	1	2	1	0	16
14	菅野 正音	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
15	斎藤 貴行	4	0	0	2	3	0	0	2	1	1	0	0	2	0	13
コーチ	中村 紀男								0							
		58	4	20	18	59	10	12	21	5	8	16	6	12	0	200
		確率	20.0%		30.5%		83.3%			計	13					

2分毎による得点の推移



## 戦評

日大山形がディフェンスをセットする前に、洛南#5名本のパワフルかつスピーディーな攻めを見せ、8-0と洛南がリードしたところで、開始2分早々に日大山形がタイムアウト。開始4分、#10畑が3Pでようやくゴールを決めるが、ペースをつかむまでには至らず、32-7洛南リードで第1P終了。

第2P日大山形3-2ゾーンに切り替えるも、洛南の落ち着いたパス回しにスローペースな展開に。洛南の高さを意識しすぎてか、シュートの正確性を欠き、スコアラーである日大山形#4菊地のシュートが思うように決まらない。75-37で洛南大量リードで第2P終了。

第3Pも特に大きな流れに変化はなく、淡々とゲームが進行する。早々とメンバーチェンジをした洛南は、多少のミスはあるものの、攻守ともに主導権を握る。

第4Pディフェンスに元気のなかった日大山形は、オールコートプレスをしかけ脚が動き始めたが、前半の巻き返しまでには至らない。高さ、スピードで相手を圧倒する洛南の強さを見せつけた試合であった。

主審 木葉一総

副審 清水幹治

記入者 長谷川智子